

府中市消防団

検索



消防団だより

第61号

発行 府中市消防団
編集 府中市消防団広報委員会
(府中市総務管理部防災危機管理課内)
(TEL 042・335・4068)

【消防団出動件数(令和6年1月から令和6年12月まで)】
災害件数(誤報を含む) 69件
災害出動延べ人数 2,814人
その他出動(訓練など)件数 163件
その他出動(訓練など)延べ人数 3,697人

府中市消防団出初式

令和7年1月12日(日) 府中公園

毎年恒例の伝統行事である府中市消防団出初式が、令和7年1月12日、府中公園において挙行されました。本年度から実施日を1月の第2日曜日に変更したこともあり、多くの方々にお集まりいただきました。

この出初式は、消防団の勇姿を市民に披露するとともに、団員にとっては、日頃からの訓練の成果を発揮し、ご臨席いただいた方々からの激励を受け、改めて地域の安全・安心のために力を尽くすことを固く誓う場でもあります。

式典に先立ち、22台のポンプ車等による市内パレード、また会場内では、睦消防組による伝統の木やり行進、梯子のりが行われ、観客を魅了する素晴らしい演技が披露されました。

大貫副団長による半鐘を合図に式典が始まり、表彰では高野市長から消防団歴15年の団員の方々に感謝状が授与されました。続いて、川崎団長から、永年勤続表彰として消防団



▲一斉放水をする団員

歴25年、20年、15年、10年5年の団員の方々が表彰されました。

引き続き、沼尾府中消防署長より、優良分団表彰として、第3分団、第7分団、第10分団、第14分団、第15分団、第17分団が表彰されました。

また、消防団員として長年ご活躍いただき、令和6年3月末日をもって退団された方々に、総務省消防庁長官表彰が授与されました。式典の終盤には、第13分団によるポンプ操法演技と第6分団、第7分団、第8分団、第9分団、第10分団による一斉放水が行われま



▲睦消防組による梯子のり

歳末特別警戒

令和6年12月28日(土)～30日(月)に歳末特別警戒を実施しました。

この歳末特別警戒は、警戒本部を府中市中央防災センターに、分所を各防災センタに設置し、消防ポンプ車にて警戒区域内に対する巡回広報活動を目的に実施しています。各分団は、地域住民へ防火・防災の意識啓発のため、広報にあたりました。

今回の警戒においては、市長、都議会議員及び府中消防署長が各防災センターへの巡察を2日間に分けて行い、各分団に対して激励のお言葉をいただきました。



▶団本部による巡察の様子

永年勤続表彰



この度、令和7年の年頭を飾る出初式において、多くの来賓ご臨席の下、川崎団長より25年永年勤続表彰の栄を賜りましたこと、大変光栄に存じます。

平成10年4月に入団してから今日まで消防団活動が続けてこられたのも、市当局をはじめ、消防署、団の先輩方、仲間達、地域の方々からのご指導、そして家族の支えがあつてのことと、深く感謝を申し上げます。

昨今、火災はもとより、台風やゲリラ豪雨といった自然災害など、さまざまな災害が危惧される中、地域における消防団が担う役割はより一層重要視されていきます。そのことから、地域防災の重要性を改めて考察し、市民の皆様が安心して暮らしていただけるよう、団本部としての責任もふまえ、消防団活動に従事していく所存でございます。

今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

本団 副団長 海老澤 拓馬

広報委員長コラム



広報委員長 第8分団 団員 大清水 航

平素より大変お世話になっております。府中市消防団広報委員長の清水と申します。地域の皆様には、日頃より消防団活動にご理解・ご協力を賜り御礼申し上げます。

私たち消防団は、地域の皆様が安心・安全に生活ができるよう有事に備えた訓練をしており、昨年は消防ポンプ車操法審査会もありました。各分団の選手は幾度となく練習を重ね、大変素晴らしい演技を披露してくださいました。サポートをした団員はもちろん、ご家族の皆様のご協力にも感謝申し上げます。

今後川崎団長の指揮の下、消防団活動に従事して参りますので、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

本年1月に府中市消防団70周年記念号を発行させていただきました。初代団長から8代目団長までの災害を含む歴史を掲載した内容になっております。こちらも是非ご覧いただけましたら、大変嬉しく思います。

広報委員会名簿

会 長	川崎 好之
副 長	海老澤 拓馬
副 団 長	田中 良和
廣 報 委 員 長	大清水 航
廣 報 委 員 長	山田 奉幸
東 部 フ ロ ッ ク 長	藤島 裕也
中 部 フ ロ ッ ク 長	高橋 由
西 部 フ ロ ッ ク 長	横田 真治
東 部 広 報 委 員	第1分団 長代 則彦
中 部 広 報 委 員	第2分団 安井 健浩
西 部 広 報 委 員	第3分団 金井 健一
中 部 広 報 委 員	第4分団 榎本 慎一郎
西 部 広 報 委 員	第6分団 大室 清匡
中 部 広 報 委 員	第9分団 小島 貴浩
西 部 広 報 委 員	第10分団 加藤 聖也
中 部 広 報 委 員	第11分団 齋藤 拓海
西 部 広 報 委 員	第12分団 依田 和也
中 部 広 報 委 員	第14分団 新澤 哲也
西 部 広 報 委 員	第15分団 増田 宏
中 部 広 報 委 員	第16分団 市川 祐樹
西 部 広 報 委 員	第18分団 室 祐樹

■25年勤続(3名)	本 団 副団長 海老澤 拓馬	第6分団 副分団長 山本 正樹	第18分団 副分団長 目代 良一
■20年勤続(13名)	本 団 副団長 田村 茂	第7分団 副分団長 秋山 直樹	第12分団 部 長 赤岡 大志
■15年勤続(12名)	本 団 副団長 田中 良和	第9分団 班 長 石川 隆太	第16分団 部 長 小松原 哲雄
■10年勤続(26名)	第3分団 班 長 都築 寛樹	第12分団 副分団長 石原 昌巳	第16分団 部 長 市川 貴浩
■5年勤続(21名)	第5分団 班 長 永峯 寛士	第12分団 部 長 遠藤 清詩	
	第1分団 班 長 小林 悟	第6分団 班 長 波多江 大介	第11分団 副分団長 廣瀬 良太
	第4分団 分団長 鈴木 雄一郎	第6分団 班 長 鈴木 敬一郎	第13分団 班 長 藤原 光輔
	第5分団 部 長 内海 真吾	第8分団 班 長 福島 聖史	第17分団 団 員 小川 信也
	第5分団 団 員 内海 保彦	第9分団 部 長 小澤 亮	第18分団 団 員 朝倉 宏行
	第2分団 副分団長 山口 正和	第7分団 団 員 杵渕 賢	第15分団 団 員 太田 亨
	第2分団 部 長 長代 則彦	第8分団 班 員 荒巻 健太	第15分団 団 員 島 亮介
	第2分団 班 長 比留間 英雄	第11分団 班 長 小宮 堅也	第16分団 団 員 谷 政善
	第5分団 団 員 石坂 明雄	第11分団 班 長 桑名 信吾	第16分団 団 員 澤井 勝寛
	第5分団 団 員 桑田 豊	第11分団 班 員 須田 隆太	第16分団 団 員 市川 晃一
	第6分団 団 員 内海 主介	第12分団 班 員 上村 憲一	第16分団 団 員 市川 潤
	第6分団 団 員 花田 康将	第14分団 班 員 松村 千葉	第18分団 団 員 金井 義洋
	第7分団 団 員 榎本 慶吾	第15分団 団 員 千葉 誠	
■5年勤続(21名)	第1分団 団 員 市村 繁	第5分団 団 員 細野 雅行	第12分団 団 員 小池 聡輝
	第1分団 団 員 前川 昂太	第5分団 団 員 山田 奉幸	第13分団 団 員 波邊 伸広
	第1分団 団 員 粕川 大貴	第6分団 団 員 栗城 慶喜	第13分団 団 員 根本 達人
	第2分団 団 員 戸塚 涼太	第7分団 団 員 猿渡 諒	第15分団 団 員 雅也
	第2分団 団 員 橋本 宏祐	第7分団 団 員 狼井 雄貴	第17分団 団 員 北村 尚弘
	第4分団 団 員 井村 凌	第8分団 団 員 菊池 達哉	第17分団 班 長 佐藤 弘徳
	第5分団 団 員 森屋 烈	第12分団 団 員 岡澤 龍也	第17分団 班 長 須藤 実

機関員操縦訓練

令和6年7月28日（日）、8月4日（日）の2日にわたって、警視庁府中運転免許試験場にて機関員操縦訓練が開催されました。

機関員操縦訓練は、府中消防署で協力のもと、毎年実施している訓練で、

有事の際に正しい知識で安全かつ迅速にポンプ車及び照明電源車を運転するための所作を学ぶことを目的としています。

今回の内容は主に、ポンプ車及び照明電源車の基本的な運転操作に加え、緊急走行時の注意点や、出動中に運転する車両が事故を起こしてしまった時の適切な対応等を学びました。

近年、甚大な自然災害が頻発する中で、1分、



整列する団員

1秒でも早く災害現場に到着できるかが重要になるのはもちろんですが、最優先すべきは安全第一となります。出動中に万が一事故を起こしてしまった時に、冷静かつ適切な対応を取ることにについても消防団員としての責務になります。今回の訓練で学んだことを各分団に持ち帰り、分団内で情報共有を図ることで府中市の消防力の向上につなげていきます。

西部ブロック長 第13分団 団員 高橋 由



事故対応時の指導を受ける団員



実際にコース内でポンプ車を操縦する団員

出動方法について

かなり昔は見える範囲が出動範囲という事もあったようで、当時は田畑ばかりで高い建物が無かったため、煙が上がると良く見えたそうです。近頃だと思っただけで出動したら調布の先だったなんて話もありました。

近年になり消防無線が配備され団の無線担当が無線を聞き、火災情報が入り次第、団員で連絡しあい出動していたそうです。

第1分団 班長 横田 真治

出火報があると警戒区域の防災センターに設置されたサイレンが消防署によって鳴らされます。そのサイレンに気づいた消防団員が防災センターに集まり、ポンプ車で出動します。出動のために必要な人数に足りない場合は、手動でサイレンを鳴らしたり、各団員へ電話したりして集合をかけた

した。鳴るのは防災センターに設置されたサイレンのみなので、防災センターから遠い場所では風向きによって聞こえなかったりしましたが、近隣の防災センターのサイレンや出動した消防車のサイレンを聞き、出火報の有無を確認することもありました。

アナログ無線だった頃は、自費で無線を購入して自宅に置き、即時に出火報に気づけるようにしている団員もいました。

また、照明電源車が配備されている分団には、ポケベルが支給され、出動要請がある場合はサイレンではなくポケベルで知らされました。

第2分団では、2週間ごとにポケベルを携帯する担当を決めていました。第一報はそのポケベルに入るので責任重大です。その2週間は夜、遠出は出来ませんでした。そして、平成21年度に出火報がメールで行われるようになりました。

第2分団 部長 長代 則彦

現在

現在の状況としては、スマートフォンが普及したことに伴い一般の通信手段が大きく変化しました。各団員への第一報は、インターネットメールを通じた手段へ変化し、そこから各団員間のやり取りは無線を

用いたものをメインとしてチャット型アプリや地図アプリが補完していくものとなっております。

現場状況を団員に共有することもあります。チャット型アプリでのやり取りでは、現場へ急行する旨の連絡や待機位置の伝達等となっております。これらのやり取りにより、実際に活動する上でより迅速に対応できるようになりました。

現場では団長指揮のもと、各分団の対応が指示されていきます。実際に水を出して消火にあたる団、投光器や交通誘導にあたり消火作業がスムーズに行えるように補助する団などに分かれて消火に当たります。

第4分団 団員 金井 健一



歳末特別警戒期間中の食事

12月28日～30日の3日間、年末で火気の使用が増え火災が発生しやすい時期に、消防ポンプ車で地域を巡回し火災予防を呼びかける活動をしています。

この3日間は20時～24時まで行われますが、各地域の自治会の方、歴代消防団の先輩方や日頃から応援してくださっている地元の皆様が防災センターまで激励に駆けつけてくださいます。

その時のみんなの楽しさといえは担当団員が準備した食事になります。ご近所の飲食店にお弁当やオードブルを注文することも多いですが、少し変わったメニューで楽しんでいる分団があるので紹介いたします。

第9分団のメニューといえば、鴨下班長がリーダーとなって作るラーメンです。麺を製麺所に特注し、スープやチャーシューを手作りで手間暇かけて仕込んでいます。激励に訪れた方々にも召し上がっていただき、好評をいただくと、団員の楽しみになっています。

他には1日目に作ったカレーに汁を加え、2日目はカレー蕎麦にしたり、3日間異なる種類の鍋料理を楽しむ分団もあるようです。

みんな年齢も職業も違いますが、団員や地域の方々と親睦を深めるきっかけにもなっています。

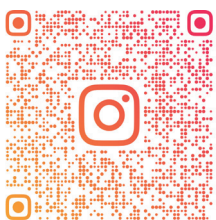
多種多様な災害が起こる危険性が高まっている中、消防団への期待も強くなっていると感じます。消防団の伝統を引き継ぎ、市民の安心安全のために時に厳しい中にも和気あいあいとした雰囲気の中「自分たちの街は自分たちで守る」をモットーに活動する消防団にご理解とご協力をお願いいたします。

第9分団 団員 大室 元



府中市消防団の公式Instagramアカウントを開設しました

アカウント名は「東京都府中市消防団広報担当」で、大清水広報委員長を中心にアカウントを運営しています。日々の訓練や消防団互助会の事業を中心に掲載していますので、ぜひフォローのほどよろしくお願いします。



CITY.FUCHU.SHOUBOUDAN